

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム たんたん

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0372100941		
法人名	医療社団法人 三和会		
事業所名	グループホーム たんたん		
所在地	〒020-0502 岩手県岩手郡雫石町板橋3番地7		
自己評価作成日	令和3年9月6日	評価結果市町村受理日	令和3年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

新型コロナの流行により、外に出る機会は減少したが、その中でも利用者に楽しんでいただける行事を企画し、喜ばれている。同一敷地内の老健との医療連携があり、健康面での観察を行うことで、早期に病院受診にもつなげることができている。マイケル(飼い猫)の存在も大きく、猫嫌いの利用者も一緒に過ごすことで無でたりできるようになり、癒しの存在となっている。職員はもちろん利用者様にも笑顔で過ごしていただけるよう今後も支援行っていきたい。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小岩井農場に近接する位置にあり、四季折々の変化が肌で感じられる地域にある。コロナ禍で外出は制限されているが、例年は外出し自然に親しめる環境である。「尊厳を大切に」を理念の基本に、花、野菜収穫のほか卓球や編み物など、本人の意向を尊重した生活を楽しんでいる。小中学校をはじめ地域との日々の交流も盛んであり、喫茶や映画会の開催など町との連携も図られている。職員の提案を受け、法人事務局も参加のもと、昼食をともにしながら「家族懇談会」を開催し、意見交換を行っている。法人内の同一敷地内に老人保健施設があり、災害時の応援・備蓄の合同対応や利用者が重度化した際の連携等、利用者・家族にとって安心できる状況ある。飼い猫のマイケルの癒し、職員の親しみやすさもあり、地域との交流や外出に適した自然環境など、良好な生活環境にある。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年10月20日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ禍で昨年からは外出することができないでいるが、ドライブを行い、車窓から景色や自宅の周辺を眺めていただき、昔の話を聞いたりすることがあった。	「尊厳を大切に」を理念の基本に、「在宅からの延長」を視点に据え、利用者の羞恥心を尊重することを大切にしている。また草取り、花、野菜収穫のほか卓球や編み物など、本人や家族から得意なこと、好きなことを聴き取り、ケアプランに反映し実践している。理念は、職員の会議の場で意味を伝え、トイレ・更衣室・玄関に掲示し、職員や家族等に周知を図っている。	「尊厳を大切に」などの理念の考え方が、年間の行事計画や日々の介護サービス等のなかで具体的にどう繋がりが、どのように反映されているのか、職員や利用者・家族に分かりやすく伝わるよう工夫された取り組みを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	一昨年までは地区の行事である花見や地域の方にも参加していただける夏祭りを開催していたが、新型コロナ感染予防のため昨年、今年は行事も中止となっている。今後の予定で、法人での取り組みとして喫茶を月1回開催しており、地域の方たちを招いて映画会など予定している。	地域の自治会に加入し、総会には事業所長のほか法人事務局からも出席している。自治会を通じ地域に法人資料を回覧し情報提供している。例年、小学校の運動会への参加やマラソン大会の応援、保育園児の訪問による肩たたき、中学生による窓ガラスふき、住民のさんさ踊り披露などで交流している。コロナ禍の中、法人内で、夏祭りや合同誕生会、音楽隊の演奏等、さらには毎月の喫茶や映画会の開催など、工夫しながら地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	以前は地域住民の会合にも参加し、情報提供の機会があったが、昨年からはコロナ感染予防のため行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年、今年度はコロナ感染により会議が中止となることが多く、利用者状況などの資料を配布のみとなった。今年度は1度開催し、コロナ禍での生活状況や様子などを報告、また、町内の様子などを委員の方に話していただいた。	家族、住民代表、民生委員、役場職員及び所長の5名で構成し、会議の都度、利用者は、委員とシルバーリハビリ体操と昼食をともにしている。隔月の月末、木曜日に開催し、利用者情報や活動報告を行っている。今後は、所長のほか所長補佐等の職員も参加し、事故・ヒヤリハット報告や委員から意見収集などを加え書面開催とすることを検討することとしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	書類などの提出は直接会って渡し情報提供を行っているが、コロナの影響で出向く回数は減少した。疑問な点があれば電話でのやり取りを行った。	これまで、町の認知症サポーターとして小学校での人形劇などに参加しているほか、町主導の認知症カフェも本年11月から実施予定である。町主催の地域ケア会議には、年4回参加し、多職種の参加者による事例検討など、有益な活動と捉えている。町からコロナ関連の物品提供も受けている。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム たんたん

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は基本行っていない。転倒の危険がある利用者様には、センサーマットを使用し、転倒防止に努めている。玄関の施錠は行わず、扉にはベルをつけてエスケープなど防止している。外に出ようとする利用者様には短時間でも付き添って、外を歩くなど少しでも要求を満たせるよう配慮している。また、施設内で行う研修会にも参加し身体拘束について学ぶ機会を設けている。	法人として「身体拘束廃止委員会」を設置し、指針を定め年2回の研修も行っている。同委員会には、所長補佐がメンバーとして参加し、検討結果を「何でもノート」に記録し、職員回覧のうえ周知し、相互に確認し合っている。玄関は自動開閉であるが、手動でベルを付けて出入りが分かるようにしているほか、スピーチロックも相互に注意し合うようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	法人内での研修に参加し、内出血など見つけた際には介護記録に記載し全職員が把握できるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修には参加できていないが、現在、成年後見制度を活用する活用する利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ご家族に文書と合わせ、口頭で説明し納得していただいたうえで同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回、家族に集まっていたが、懇談会を開催していたが、昨年からコロナ禍で行えていない。コロナが終息したらまた再開したい。	法人事務局も参加のもと、年2回春と秋に昼食をともにしながら「家族懇談会」を開催し、意見交換を行っている。利用者の日常生活を載せた写真入りの事業所通信「かんろ」を年3回送付しているほか、利用者が病院受診で来訪した際にも、家族と情報を交換している。利用者からは、毎日の「新聞読み聞かせ」や体操の時に希望を聴き取り、散歩などの可能なものは直ちに反映している。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム たんたん

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝、申し送りの際には業務改善会議も併せて行い、職員が意見や提案をできる機会を設け業務がスムーズにできるよう見直しを行っている。また、会議で話し合われたことで決定したことは記録として残し、全職員が把握できるようにしている。	「何でもノート」に提案やアイデア等を記載するなど、朝の申し送り時に時間をかけて意見交換している。定期的な個人面談は行っていないが、日々の業務活動の中で話し合い、チームワークを大切に、個々に職員が法人事務局に要望した事項も共有している。家族懇談会も、職員提案によって開催したものである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者もしくはその他職員は、週1度は代表者へ日誌提出、各報告、相談をする機会を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内での研修は定期的に行っているが昨年から外部での研修は参加できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	以前は町内の福祉関係者の研修や小規模多機能の関係者が集まる機会があったが、昨からはコロナ感染予防のためそのような機会はない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居後は介護記録に詳細に記録している。家族にも聞き取りをすることで情報を得て、いち早く変化に気づき個別的に対応することで安心を確保することができている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の状態や家族状況を職員が把握し、状況をきちんと伝えることを行っている。利用者のことだけでなく、家族の生活での不安等も傾聴し、話を聞くことで少しでも気持ちが楽になるよう支援行っている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんたん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービス利用に対応した利用者はいない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホーム内の清掃や食器拭きは声をかけなくても利用者が自ら進んで行ってくれている。また、名前を呼ぶ際にも、昔から馴染み親しまれた呼び方で呼んでいる利用者もいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診は基本のご家族に同行していただいている。入居してからも利用者とは接する機会を持っていただくため、その際に本人も交えて、会話をする機会を得るようにしている。コロナ禍でそのような機会も少なくなっている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	同一敷地内にある老健から移動してきた利用者様があり、時々訪問して、会話をすることがある。	日常の会話などから利用者の幼少時や職場のこと等を聞き取り職員間で情報を共有しながら、自宅周辺へのドライブや以前入所していた敷地内の老人保健施設の合同行事に参加している。本人の馴染みをケアプランに取り入れ、ショッピングセンターでの買い物や美容院、温泉への同行など、希望に沿った支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のトラブルはあるが、職員が間に入ることで関係が悪化しないよう配慮することを心がけている。また、トラブルがあった際には情報を共有し対策等を話し合い援助方法を統一するようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の老健に移る利用者もいるが、時々、訪問したり、家族とも顔を合わせる機会がある。また、支援相談員より、連絡があり、食事を食べなくなった利用者に対して食事介助を手伝ったり、本人に話を聞きに行ったりすることもあった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聞き取るうえで難しいことも多いが、家族への聞き取りや会話の中から引き出すように努めている。日々の変化を見逃さないよう情報の伝達を確実にを行うため、個別の記録を作成して、共有できるようにしている。	利用者自身が言葉で伝えることができる方が多い。午前の体操終了後には利用者の話をじっくり聴き取っている。モップ掛け掃除や食器洗い、畑仕事など、具体的内容をケアプランに取り入れている。朝の申し送り時を本人支援の検討の場とし、利用者の状況や思いを職員間で話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職歴、生活歴等を情報として聞き取り個別ケアを検討している。これまで本人が行ってきた得意なことをホーム内でも行っていただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人のニーズに沿いながらも規則正しい生活を促している。バイタル、食事量、水分量、睡眠時間、排泄等を職員が確実に把握するよう個別記録には細かく記録するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意見も聞き取り、スタッフの意見も聞きながら、サービス計画に反映するようにしている。計画には家族にも協力していただいている内容もあり、「ご家族」と記載しているプランもある。	所長である管理者がケアプランを作成している。入居説明時に利用者・家族の意向を聴き取り、同意を得て原案とし、主任介護福祉士と相談のうえ介護記録に掲載し、職員の意見を盛り込んだ上で介護計画としている。短期で3か月、長期で6か月ごとに介護計画を見直しているほか、本人の介護度が変わった際にもプランを変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録にケアプランの実施状況を記載している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	若い時から卓球をしてきた利用者に対して個別にレクリエーションを計画し、毎日夕方に職員と卓球を行っている。時々、他の利用者も「やってみたい」と話し、相手をすることもある。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんたん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	町内で開催される認知症カフェに利用者も参加していたが、コロナ感染予防のため、参加できていない。また、60代の利用者があり、障害のある利用者が自由に参加できるデイサービス等も検討している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は利用者と家族が決めている。定期受診時は特変ある際には情報提供書を作成したり、直接、電話で問い合わせなどの支援をしている。	敷地内の介護老人保健施設に入所していた利用者は、これまで受診していた医療機関に通院する傾向があるが、利用者・家族の意向でかかりつけ医を決めている。必要に応じ「情報提供書」を事業所で作成し、医療機関に持参している。家族同行で近隣の医療機関へ受診する場合には、2か月に1回を基本とし、家族が受診結果を事業所に伝えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設の老健と医療連携があり、月1回のカンファレンスを行っている。また、体調が優れない利用者がある際には施設の医師に診察してもらい受診等の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院となった利用者には面会に行き、状態を確認したり、見通しなど聞き取りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、重度化した場合にはおける対応にかかる指針を作成し看取りは行っていないことを説明している。利用者の状態について変化が出てきた際には、その都度連絡をして看取りについても早い段階で家族、主治医と話し合いの場を設けている。	敷地内に老人保健施設が併設され、また事業所の職員体制の面からも看取りを行っていない。入居時に家族等に説明し同意を得ている。重度化に伴い老人保健施設のターミナル専用室に住み替えしている例もある。月1回の看護師によるカンファレンスで、利用者の重度化等への対応についても研修を行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は普通救命講習を修了し実践力を身に付けている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんたん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人内での連絡体制を整え、グループホーム以外の職員にも応援に来てもらえるようにしている。委員会を設け、3か月に1度の会議を開催している。	火災の避難訓練は、敷地内事業所全体として年2回実施している。うち1回は、予告なしで敷地内の老人保健施設からの駆けつけ応援体制の確認を行っている。今後、夜間想定訓練を行い対応力の向上に努めるとしている。町のハザードマップでは災害の指定地域に該当していない。反射式ストーブ、卓上コンロのほか、缶詰・レトルト食品、水等、敷地内事業所と合同で3日分の食糧を備蓄している。	法人全体としての消防計画、職員への連絡体制や緊急時の役割分担などを整備するほか、具体的場面で事業所独自で円滑に対応するためにも、独自のマニュアルを整備することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳を大切にするという理念もとにおいて、対応している。利用者の排泄の介助においては、羞恥心の配慮についてサービス計画書に取り入れている。	利用者本人が、排泄などを上手にできない場合には、ケアプランに「羞恥心に配慮しながら」と明記している。トイレや入浴への誘導は、利用者の耳元で小声で行ない周囲に配慮しているほか、利用者の居室入口に防災のれんをつけて、利用者のプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表現したり、自己決定できるように働きかけている	家事などご本人が自主的に行うことは不十分でも見守りや声かけを行うことで達成感を感じることができるよう支援している。コロナ禍で外出がままならない生活となつてはいるが、裏庭の畑で野菜を収穫したり、草取りをしたり自分の得意分野を活かした生活ができている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	毎日すべての利用者に対して職員側の決まりなしでの介護は対応しきれない場合もある。短時間でも利用者本位の時間の過ごし方ができるよう支援行っていくことを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	在宅生活の延長と考え、ご家族には自宅で好んで着ていた洋服を持参していただき、日常的に着ている利用者もいる。		

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム たんたん

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が自主的にできることや、やりたいことを行っていただき、それぞれ役割がある。ホワイトボードに献立を記入することもある。職員が個々の好みを把握して献立に取り入れている。	調理は、職員全員が当番制で利用者が希望するものを作り、随時管理栄養士が献立表を点検している。ソーメンや果物など季節に応じたものや、利用者が新聞のチラシを見て希望したものも提供している。花見、敬老会、忘年会などでは、寿司や鍋物等の行事食を提供しているほか、希望に沿ってショッピングセンターやファミリーレストランでの外食も職員同行で楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じて、お粥や刻みを提供している。また、食事量も食べる量や運動量に考慮し提供している。水分は毎食後、朝10時、寝る前に提供、暑い日には入浴前後、外出後にも摂取していただいている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状況に応じて介助を行ったり、自分で行える利用者にも最後は声をかけて毎食後、支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を基本として、その方に合った時間にトイレ誘導している。リハビリパンツと尿とりパッドを使用していた方がトイレ誘導することによって汚染が少なくなり、綿パンツにすることができた利用者様もいた。	「排泄チェック表」のデータに基づき、利用者のパターンに応じてタイミングよく声掛けしてトイレに誘導しており、おむつやポータブルトイレを使用する方はいない。自立に向けた職員の対応により、パットを使用しなくなった例もある。異性介助は、利用者本人の状況に応じて対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取に気を付け、夏場の暑い時には入浴前や入浴後にも水分補給をしてから行ったり、午前、午後にも体操や歩行運動、レクリエーションを行い運動量の確保に努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそうした支援をしている	なかなか、一人ひとりの希望に応じて入浴をしていただくことは難しいが、汗をかいたり、便汚染などで汚れがひどい時には予定日以外にも対応することがある。	入浴は、月から土曜日の間に週2回としている。午後2時頃から誰もが嫌がらずに入浴している。夏場は、本人の希望等に応じてシャワーを利用する場合もある。入浴剤は使用していないが、季節感を味わうため柚子湯や菖蒲湯を活用している。異性介助でも利用者の抵抗感はないが、入浴時に職員が身体の状態等を本人からも確認し、職員間で情報共有している。	

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム たんたん

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、活動的に過ごすことが夜間の安眠につながることを基本としているが、昼食後には休息を促し午睡をしていただいている。夜は夕食後に片付けをみんなで行い、その後、テレビを見ながらお茶を飲み、ゆったりとする時間を設けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤処方ファイルを作成いつでも確認ができるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	畑の草取りやホーム内の掃除を一緒にやっていただいたり、テレビで好きな番組があれば、録画をしてそれぞれ好みの物を見ていただいたりしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防のため、外出は病院受診時のみとなっている。近隣に散歩に行ったり、同一敷地内にある老健での合同行事が多くその際には出向くこともある。	利用者の誕生日等には、「小岩井農場」などの周辺の観光施設で昼食したり、近隣地域にドライブと食事に出掛けている。外での対応が無理な場合には、室内でのリクリエーションや敷地内の老人保健施設を訪ねたり、畑で野菜づくりを行っている。コロナ禍以前は外泊し、お盆や墓参りにも出掛けていた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事情があり、家族が金銭管理を行っていない利用者や遠方に住む家族がいる利用者はお金を預かり生活必需品を購入しお小遣い帳に領収書を貼り、管理している。基本お金は持ち込まないこととしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者から希望があれば電話は自由に利用できる。手紙は書くことはないが、家族から手紙が届いた際には代読したり、職員に読んで聞かせる利用者もいる。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム たんたん

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	キッチンが中央にあるため、職員も見通しが良く、食事を作っている際には利用者からも見えやすい。また、行事の写真や季節に応じた飾り付けをして、四季折々の雰囲気を楽しんでいただいている。	ホールは床暖房で暖かく、テレビ2台が設置されそれぞれが好みの番組を視聴している。「飼い猫のマイケル」もソファで寛げる環境である。あまり使用されていないが、畳敷きのスペースもある。壁面には、行事の写真が掲示され、クリスマス、桜の花、お雛様の折り紙、みずき団子など、季節感あふれる飾り付けがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子に座れる食堂やソファを置いたりリビングがあり、それぞれ好きな場所で過ごされている。段差のない畳の部屋もある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等を持ち込むことを勧めている。家族の写真を持ってきてくださる方もおり、居室に飾っている利用者もいる。	居室内には、木製ベッド、洗面ユニット(湯対応)、クローゼット、FFストーブが備え付けされている。利用者は、テレビ、衣装掛け、タンス、イス、写真等を持ち込み、自分の居室らしさを出せるよう配慮している。職員が毎朝掃除しているが、掃除ができる利用者には手伝っていただく場合もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、バリアフリーの構造。トイレは車椅子用、男子用を含め4ヶ所。常に見守りができるようキッチンが中央にある。場所がわかりやすいよう表示をして工夫している。		